第８回新潟地区国立病院薬剤部科勉強会を開催して

新潟病院
花垣　諒太

はじめに

令和５年11月11日（土）、第８回新潟地区国立病院薬剤部科勉強会を開催いたしましたのでご報告いたします。今回は、COVID-19が５類感染症に移行したこともあり、現地開催とオンライン開催を併用したハイブリッド形式で新潟病院薬剤部が幹事施設となり開催いたしました。

参加者は新潟県内３施設の薬剤師、過去に新潟県内３施設に在籍した薬剤師だけでなく、薬事専門職の軍司剛宏先生、関信地区国立病院薬剤師会会長（国立国際医療研究センター病院薬剤部長）西村富啓先生をはじめとする、多くの県外の先生方にもご参加いただき、総勢50名弱（うち現地参加12名）の参加で開催されました。

勉強会の様子

今回は新潟病院で導入したTOSHOの全自動秤量散薬分包機（写真１）の紹介と見学、薬剤等管理監の秋元朝行先生による特別講演の２部構成で研修を行いました。

当日は快晴とまではいきませんでしたが、雨も降ることなく定刻通りに開催することができました。さいがた医療センター薬剤科長山田昌彦先生からの開会の辞、次いで新潟病院薬剤部長岡本一人先生からの幹事施設長挨拶を経て、第１部となる「全自動秤量散薬分包機を導入した効果」の講演が行われました。講演終了後、全自動秤量散薬分包機を設置している調剤室へ移動し「全自動秤量散薬分包機の見学」を行いました。「全自動秤量散薬分包機の見学」では、オンラインによる中継もおこない、現地参加の先生だけではなく、オ

写真１

ンライン参加の先生方にも見学していただくことができました。病院薬剤師が不足している中、調剤機器を導入することで調剤時間を減らし、対物業務から服薬指導やチーム医療などの対人業務への移行を進めていることに先生方も関心を持って聞いていました。

休憩を挟んだ後の第２部では、「国立病院機構本部の取組みについて ～薬剤師に求められること～」の講演が行われました。本公演では、標準的医薬品・一部対象外医薬品の共同入札、医療安全への取り組み、NHOフォーミュラリなど国立病院機構本部での取り組みについて、普段聞けないような内容について講演していただき、過去の勉強会等で顔なじみの先生方も非常に興味を持ちながら聞くことができました。また、国立病院機構本部の取り組みを理解することで、日々の業務への理解を深めることができました。

研修課題終了後、関信地区国立病院薬剤師会会長の西村富啓先生から感想をいただき、その後の全体会議では、次回の開催についての検討が行われ、西新潟中央病院が幹事施設となりました。日程や内容についてはアンケートの結果等を参考に今年度中を目途に実行委員が幹事施設の西新潟中央病院と委員会を開き、計画・提案すること等が決まりました。

薬事専門職の軍司剛宏先生からの業務連絡では、地方開催で尚且つハイブリット形式で行われたことについてお褒めの言葉をいただきました。その後、西新潟中央病院薬剤部長平岡潤也先生からの閉会の辞をいただいて盛会のうちに終了となりました。

考察

今回の勉強会も県外の先生方にご参加いただき感謝に堪えません。しかし、来年度以降の実施に向けての課題も見えてきました。まず、参加する先生方にいかに興味を持ってもらえるような内容にするか。そして遠方からの交通手段や宿泊場所の確保の必要性。ハイブリッド形式で行った場合のアンケート集計方法。より多くの先生方に参加してもらうために早い時期から広報活動を行う等が挙げられます。

研修内容につきましては、今回は講演と見学で、実技は行えませんでしたが関信地区の国立病院機構で初めての導入となった全自動秤量散薬分包機を見学いただいたことは非常に良かったと考えております。アンケートの結果では最新の医療を取り上げてほしい、各施設の特色を取り入れてほしいなどの意見もあり、こういった貴重な意見を今後どのように取り入れていくべきか考えています。

医療用医薬品は日々進化しており、最新の治療について理解しスキルアップ・リスキリングを行うことは重要なことと思いますが、病院薬剤師の確保が困難な中、最新の調剤機器を理解し活用していくことで、薬剤師が病棟やチーム医療で活躍できる環境をつくることも重要であると考えます。今回の全自動秤量散薬分包機の紹介と見学は良いきっかけとなったのではないかと思います。実際に全自動秤量散薬分包機を使用してみると定期処方など決まった処方に関しては時間の短縮が出始めています。自身の業務だけで満足していたことに対して反省するとともに、こういった機会をとおして、対物業務から対人業務への移行を進めることで、患者さんのために薬剤師だからこそできる業務を考えさせられ、広い視野を持つことの重要性を再認識しました。

今回の開催場所である新潟病院は交通の便があまり良くなく、関東方面からは、上越新幹線と信越線を利用して３時間程度かかります。今後、勉強会後の懇親会の開催も含めて考えた場合、県外から現地におこしいただける先生方の宿泊場所や帰りの交通手段を考慮した計画が必要と感じました。

また、今回準備を始めたのは８月頃でありましたが、広報が直前となったため、開催地区の交通の不便さなどで、現地での参加を希望される県外の先生方の中で都合がつかなかった先生方もいらっしゃったかと思います。こういった反省点を踏まえ、来年度の勉強会では早めに準備を始め、より多くの先生方が参加できるような計画を立案したいと考えております。

感想

今回で新潟地区勉強会も第８回を数えることとなり、新潟病院でハイブリッド形式により開催することは初めてであり、幹事施設としての参加は、とても有意義で気づかされることが多く良い経験となりました。今回は、ハイブリッド形式での開催であったことに加え、途中、全自動秤量散薬分包機を設置している調剤室へ移動し、オンライン中継をすることなど、初めての試みが多く、当日の司会進行にあたり戸惑うことが多々ありました。また、他施設の実行委員との打ち合わせ、会次第の作成など、勉強会の準備・運営にあたり、多くの先生方の協力が必要であることに改めて気づかされました。本勉強会の広報に関しましては、過去に新潟県内３施設に在籍されていた先生方にも非常に多くのご支援をいただき感謝申し上げます。勉強会の目的の一つである「協力体制の構築」を実行委員の立場からも実感することができました。

今後も新潟県内３施設の連携を密にするのはもちろんのこと、内容をより身近で有意義なものにして、多くの県外の先生方にも、参加していただけるような勉強会にしたいと思います。また、他の地域の模範となるような勉強会を計画・継続していきたいと思います。

最後に、研修課題の講師を務めていただいた新潟病院薬剤師の中村舞奈先生、薬剤等管理監の秋元朝行先生、ご感想をいただきました関信地区国立病院薬剤師会会長の西村富啓先生、業務連絡をいただきました薬事専門職の軍司剛宏先生、本勉強会実行委員の浅見友美子先生、穐間睦先生、開催に際しご協力いただいた全ての先生方に、この場をお借りして深く感謝とお礼を申し上げます。